

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 2 区分
 【発行日】平成 26 年 7 月 17 日 (2014.7.17)

【公開番号】特開 2014-105749 (P2014-105749A)
 【公開日】平成 26 年 6 月 9 日 (2014.6.9)
 【年通号数】公開・登録公報 2014-030
 【出願番号】特願 2012-257924 (P2012-257924)
 【国際特許分類】

F 1 6 H 1/28 (2006.01)

F 1 6 H 57/04 (2010.01)

【F I】

F 1 6 H 1/28

F 1 6 H 57/04 D

F 1 6 H 57/04 Q

【手続補正書】
 【提出日】平成 26 年 4 月 2 日 (2014.4.2)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 2
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 2】

減速機 1 0 のケーシング 3 0 は略円筒形をなしている。ケーシング 3 0 の車体内側の内周に第 1 主軸受 4 6 が嵌入されており、第 1 主軸受 4 6 を介して第 1 キャリア体 3 4 の外周にケーシング 3 0 が回転自在に支持される。また、ケーシング 3 0 は車体外側に縮径部を有しており、この縮径部の内周に形成された凹部 3 0 C に第 2 主軸受 4 7 が嵌入されている。この第 2 主軸受 4 7 を介して第 2 キャリア体 3 8 の外周にケーシング 3 0 が回転自在に支持される。なお、第 1 および第 2 主軸受 4 6、4 7 は、ケーシング 3 0 に対して圧入されていてよいし、隙間嵌めされた後に図示しない止め輪でケーシング 3 0 に固定されてもよい。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 5
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 5】

第 2 キャリア体 3 8 の外周面に形成されたねじ穴にはベアリングナット 5 6 が螺合されている。第 2 主軸受 4 7 の内輪 4 7 C がベアリングナット 5 6 の左端面と接触し、第 2 主軸受 4 7 の外輪 4 7 B はケーシング 3 0 の凹部 3 0 C と接触している。また、第 1 主軸受 4 6 の外輪 4 6 B がケーシング 3 0 と接触し、第 1 主軸受 4 6 の内輪 4 6 C が第 1 キャリア体 3 4 に形成された内輪規制面 3 4 A と接触している。この結果、第 1 および第 2 主軸受 4 6、4 7 が嵌入されたケーシング 3 0 の軸方向の移動は、ベアリングナット 5 6 によって規制されている。

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 3 7
 【補正方法】変更
 【補正の内容】

【 0 0 3 7 】

図 6 (a) は、プレート 2 3 を車体外側から観察したときの平面図である。プレート 2 3 の車体外側端面 (円筒ころ 2 2 側の端面) には、外周から内周に向けて延びる案内溝 2 3 D が設けられている。これにより、第 1 キャリア体 3 4 の案内内部 3 4 G から流れてくる潤滑油を、遊星ピン 2 0 と円筒ころ 2 2 との接触面まで案内することができる。

【 手 続 補 正 4 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 4 4

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 4 4 】

1 0 減速機 (遊星歯車機構) 、 1 6 入力軸、 2 0 遊星ピン、 2 2 円筒ころ (軸受) 、 2 3 プレート、 2 3 D 案内溝、 2 4 遊星歯車、 2 4 D 案内溝、 2 8 内歯体、 2 8 A 内歯歯車、 2 8 B 穴、 2 8 C 座ぐり穴、 2 9 A 工具穴、 3 0 ケーシング、 3 4 第 1 キャリア体、 3 4 G 案内内部、 3 8 第 2 キャリア体、 4 6 第 1 主軸受、 4 6 D リテーナ、 4 7 第 2 主軸受、 1 0 0 車輪駆動装置。

【 手 続 補 正 5 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 図 面

【 補 正 対 象 項 目 名 】 図 2

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【図 2】

